

第四章 炭山雜件

第一節 官業整理ト海軍採炭所

大正四年大隅内閣ノ當時官業整理委員會ヲ置キ官業整理ニ關シ調査セシメラレタリ（委員長大藏大臣、海軍ヨリハ鈴木海軍次官委員タリ）

右調査會ノ趣旨ハ

「現時政府ニ於テ經營スル官業ハ孰レモ相當ノ理由ニ依リテ創設セラレタルモノナリト雖モ其多クハ事業ノ性質上政府ノ直接經營ヲ絶對ノ必要トスルモノニアラズシテ其創設ノ當時ニ於テハ未ダ其種ノ民業ノ技術及經驗、經營ノ方法幼稚ナリシニ依ルト雖モ現時ニ於テハ其當時ト事情ヲ異ニシ民間經濟ノ進歩發達著シキモノアルヲ以テ特種ノモノヲ除クノ外ハ之ヲ政府ニ於テ直接經營スルノ必要ナキノミナラズ之ガ官營ヲ續行スルトキハ却テ民業ノ進歩發達ヲ阻害シ且ツ行政及財政上ノ煩累ヲ増スモノナルヲ以テ官業ノ中純然タル民業ニ適スルモノハ之ヲ專ラ民業ニ委ネ未ダ純然タル民業ニ移スヲ相當トセザルモノハ之ガ組織ヲ改メテ官民合同ノ經營トナシ以テ一面ニ於テハ民間經濟ノ獨立の發達ヲ圖リ他ノ一面ニ於テハ行政ノ組織ヲ簡略ニシ財政

○官業整理
調査會ノ
趣旨

上ノ累ヲ除クヲ以テ時宜ニ適シタルモノトス依テ各種ノ官業ニ就テ調査ヲ行フノ必要アリ」ト云フニ在リタリ

而シテ海軍採炭所ニ關シテハ其ノ土地、建物、機械類、全部ヲ鑛業權ト共ニ拂下之ヲ民業ニ移スノ整理案ニ就キ大正五年三月特別委員ノ審議ニ附セラレタリ

因ニ本特別委員ハ鈴木海軍次官ノ外、江木 久保田 加藤 町田 ノ諸氏ヨリ成レリ

海軍側ハ軍事上竝ニ經濟上ノ見地ニ於テ左記ノ通拂下ヲ不可トセシガ之ニ對シ整理ヲ可トスル側ハ主ニ經濟上ノ點ニ就テ專ラ鐵道院ニ於ケル購入炭ト比較考查シ採炭所ヲ拂下ゲタル曉ニ於テモ海軍ガ石炭購入ノタメニ要スル經費ノ増加ハ約三十萬圓内外ノ範圍ニテ可ナルベク海軍委員ノ説明スル如キ大ナル費用ノ増加ナシト斷定セリ依テ海軍ハ左記ノ如ク鐵道院用炭ト海軍炭トノ比較相異ノ點ヲ説明スル處アリシガ特別委員會ニ於テハ整理原案ニ若干ノ修正ヲ加ヘ結局採炭所ノ拂下ヲ可トシ同年六月此旨ヲ委員長ニ報告セリ

後委員總會ニ於テ他ノ諸整理案ト共ニ之ヲ審議中内閣更迭ニ及ビシガ當時マデニ於ケル委員ノ意向ハ軍事上財政上等ノ關係ニ依リ整理ヲ斷行スルハ甚ダ困難ナル事情アルノミナラズ時局ノ推移ニ鑑ミ官業ヲ民業ニ移スコトハ尙ホ考慮ヲ要スベキモノ尠カラズト云フニアリ依テ官業整

○採炭所拂
下問題

○調査會廢止
(大正五年十一月)

理ノ必要アルモノハ關係各省ノ調査攻究ニ任ズルモノトシ此際官業整理調査委員會ヲ廢止スルコトニ大正五年十一月閣議ヲ決セラレ探炭所拂下ノ件モ亦一段落ヲ告ゲタリ

海軍探炭所拂下ニ對シ海軍ノ反對論

○探炭拂下ニ對スル海軍ノ反對

- (イ) 軍事上ノ見地ヨリ艦船行動用工廠工業用トシテ相當出炭力アル良質ノ炭山ヲ保留經營スルヲ安全ト認ム
- (ロ) 又交通不便ニシテ貯炭少キ要港其他ノ貯炭場ニ於テハ艦船行動上ノ都合ニ依リ急速配炭ヲ要スル場合市場購入ニテハ時機ヲ失スルガ故ニ海軍直營ノ炭山ヨリ何時ニテモ供給シ得ル準備アルヲ要ス
- (ハ) 門司ニ於ケル市場石炭價格ト西戸崎ニ於ケル新原炭價格トヲ比較スルニ新原炭ハ約二圓低下ナルヲ以テ供給炭三十一萬余噸ニ對シ六十二萬余圓竝ニ特別會計益金年額七萬余圓ヲ歲入ニ提供セザルトキハ合セテ約七十萬圓低廉ナル石炭ヲ使用スル計算トナル故ニ新原探炭所ヲ撤廢セバ將來年額約七十萬圓ノ經費増加ヲ要スベシ

○探炭所拂下ニ對スル海軍ノ説明

海軍探炭所拂下ニ依ル石炭費ノ増加ニ付説明

- 一、海軍ニテ購買スル石炭ト鐵道院購入ノモノトハ品質規格ニ於テ著シキ相違アルコト乃
 - (一) 海軍ニテハ一定ノ規格ヲ示シ之ニ依リテ購入シツ、アリテ不合格ノトキハ全部廢却セラル、カ故ニ納品ニ對シテ特ニ其品質ヲ精選スルヲ要ス 然ルニ鐵道院ニ於テハ多クノ炭鑛中ヨリ適當ト認ムル切込炭ヲ選定シテ標準炭トシ此標準炭ト比較檢査シテ劣ラザルモノヲ購入スルヲ例トス其間多少不良ノ點アルモ減價購買スルヲ例トスルガ故ニ海軍用石炭ノ如ク特ニ選別シタルモノニアラズ普通一般市上ノ切込炭ナリ
 - (二) 海軍用石炭ハ一部ノ工業用炭ヲ除キ他ハ艦船用トシテ使用セラル、モノニシテ殆ド凡テガ塊炭ニ限ラレ僅ニ八分目篩ヲ通過スルモノノ一定少量ヲ許スニ過ギズ而ニ鐵道院ノモノハ普通ノ切込炭ニシテ小塊以下ノ粉炭量約七十五%ヲ占メ(艦船用石炭ニ相當スルモノハ約其二十五%ニ過ギズ)殆ド粉炭ト見テ可ナリ
 - (三) 鐵道院ノ石炭ハ灰燼量分析ニ於テ十七、八%ナルニ海軍用石炭ハ多ク一〇—一二%以下ナリ
- 二、海軍ト鐵道院トハ購買方法ヲ異ニスルコト

- (一) 海軍ハ一年度ヲ限り契約スルヲ例トスルモ鐵道院ハ三ヶ年間位ノ長期ノ契約ヲナシツ、アリ
 - (二) 海軍用石炭ヲ納入スベキ場所ハ多ク炭坑所在地ヨリ遠キ軍港要港等ナルモ鐵道院石炭ノ大部分ハ炭山坑所ノ近傍貨車渡ナルヲ以テ運賃保險料諸掛等ニ多クノ顧慮ナクシテ單價ヲ決定シ得ルコト
 - (三) 從テ鐵道院用ノモノハ日々連續的納入スルヲ得テ海軍ニ納入スル如ク一時ニ多量ヲ運搬スルヲ要セズ作業上大ニ利アルコト
- 三、購入數量ニ大差アルコト
- 鐵道院ノ石炭ハ主ニ汽車用ナレバ炭質モ概シテ一樣ニシテ海軍用炭ノ種別多キニ比スベカラズ從テ前者ハ全国各地ノ所要總量ヲ全部鐵道院ニテ取纏メ契約スルヲ得其ノ價格モ年額一千萬圓ニ上ルヲ以テ海軍ガ數萬圓乃至數十萬圓ノ石炭ヲ各所ニ購買スルニ比較セバ其ノ單價モ海軍用炭ニ比シ大ニ廉ナルベキハ當然ナリトス
- 要スルニ海軍用炭ト鐵道院用炭トハ其ノ品質ニ於テ著シク相違アルニ拘ラズ之ヲ同一品位ノモノトシ且ツ諸般ノ狀況ニ於テ前記ノ如キ差違アルニモ關セズ採炭所ヲ民業ニ移シタル後ニ

海軍省內ニ於テ新原炭山經營ニ關シシテ繼續シテ可トス
 (大正三年)

農商務省製鐵所佐世保附近炭山ノ開發ヲ企ツ
 (大正八年六月)

製鐵所ノ炭山計畫軍ニ對シ海軍ノ方針

於テモ年々海軍ニ要スル石炭費ノ不足ガ直ニ參拾萬圓内外ノ範圍ニ於テ經理シ得ベキモノナリト斷定スルコトハ甚ダ不當ナリト謂フヲ憚ラザルナリ

其後大正十三年省內ノ軍政調査會ニ於テモ海軍炭山ヲ部外ニ移管拂下ヲナスガ或ハ當分其ノ經營ヲ一時中止シテ現設備ノ維持ヲ行フノ可否ニ付テ審議セラレシガ新原炭山ハ海軍ニテ經營スルヲ經濟上最有利ナルガ故ニ現狀通り海軍ノ直營下ニ稼行繼續スルヲ得策ナリトノ結論ニ達セリ

第二節 佐世保炭田調査

由來農商務省所管製鐵所ハ其ノコークス原料トシテ開平炭及本溪湖炭ヲ輸入シ來リシガ本溪湖炭ハ滿鐵鞍山製鐵所ノ開始ニ伴ヒ専ラ其ノ需要ニ應ズルコト、ナリ又開平炭ノ輸入モ兎角意ノ如クナラザルコトアル狀況ニ鑑ミ之ヲ内地炭ニ仰ガントシ物色ノ結果北松浦郡山口村日比炭鑛中五尺層ト稱スル炭層ヲ探掘シ之ガ積出港トシテ鴛鴦ヶ浦ニ若干ノ水陸設備ヲナスコトヲ計畫シ大正八年六月白仁製鐵所長官ハ先以テ本件ニ付財部佐世保鎮守府司令長官ノ同意ヲ求メ來レリ即チ同長官ハ佐鎮機密第三二五號ヲ以テ本件ニ關シ上申スル處アリタリ是ニ於テ海軍當局ハ

詮議ノ結果不取敢同方面ハ海軍將來設備ノ豫定地タルノ理由ヲ以テ圓滿ニ之ヲ拒絶セシメタリ
シガ當時枋内海軍次官ハ佐世保鎮守府司令長官ニ申進メ將來ノ方針ヲ示シタリ

大正八年七月官房機密第一〇五一號

海軍次官ヨリ佐世保鎮守府司令長官へ申進

佐世保軍港内鑛業ニ關スル件

本件ニ關シ佐鎮機密第三二五號ヲ以テ御上申ノ次第モ有之候處左ノ通其方針ヲ決定セラレ候條
御承知相成度

- 一、鴛鴦ヶ浦方面ハ將來工廠設備ノ擴張上必要ナルノミナラズ製鐵所ガ大規模ナル採炭事業
ノ爲軍港ノ諸設備ニ接近シテ海陸聯絡設備ヲ建設スルコトハ取締上其他ニ於テ不利不便
尠カラザルガ故ニ之ヲ許可セザルコト
- 二、大島ヨリ相ノ浦方面ニ渉ル深層炭ノ大鑛區ハ有事ノ際海軍ニ於テ之ヲ採炭スルノ必要ア
ルガ故ニ豫備炭田トシテ保有スルヲ要ス
- 三、前項ノ理由ニ依リ佐鎮機密第三二〇號ノ二附圖不許可區域ノ外ニ現軍港境域内ノ地區ハ

軍事上ノ必要ニ依リ爾後悉ク鑛區不許可區域ニ編入スルコト

- 四、前項區域内ニ現ニ試掘探掘權ヲ有スルモノニアリテハ將來漸次之ヲ減少スル方途ヲ講ズ
ルコト

之ガ爲適當ノ時機ニ於テ必要アルモノハ漸次補償買収ニ努ムルコト
右依命申進ス

而シテ佐世保鎮守府ハ右海軍省ノ趣旨ヲ體シ左ノ通り鑛業拒否ニ關スル具体方針ヲ定ムルニ至
レリ

鑛業拒否ニ關スル佐世保鎮守府ノ方針

- 一、爾今軍港境域内及軍港境域ノ外周三百間以内ハ全部不許可トス
- 二、右區域内ニ於テ現ニ試掘探掘權ヲ有スルモノニ對シテハ鑛業用地使用願及試掘繼續願ハ
相當ノ條件ヲ附シ許可ス
- 三、軍港境域内ニ於テ現ニ試掘探掘權ヲ有スルモノヲ漸次減少スルニハ主トシテ補償買収ノ
方法ニ依ルコト其實施順序ヲ大略左ノ如ク定ム

- 第一、鴛ノ浦方面鑛區
- 第二、相ノ浦方面鑛區
- 第三、豫備炭田豫定鑛區
- 第四、軍港水道水源涵養竝ニ貯水上必要ト認ムベキ附近鑛區
- 第五、右以外ノ軍事上必要ト認ムベキ鑛區

前記ノ問題ヲ動機トシテ海軍省當局ハ海軍探炭所職員等ヲシテ佐世保附近炭田ヲ調査セシムル處アリシガ結局前記大正八年七月官房機密第一〇五一號第二乃至第三ノ方針ノ實行上此際尙充分ノ調査ヲナシ置クノ必要ヲ認メ大正九年四月岡田海軍省艦政局長ハ佐世保軍港境域内ニ於ケル保留炭田ノ調査及採掘ニ關スル覺書ヲ提案シ之ニ基キ先以テ專問家ニ囑シテ炭田ヲ實査セシムルコト、シ當時海軍煉炭製造所囑託九州帝國大學教授永積工學博士（元海軍技師ニシテ海軍煉炭製造所ニ在勤セルコトアリ）ヲ更メテ海軍省囑託トシテ燃料及炭田ノ調査ニ關與セシメ同月官房機密第五四四號ヲ以テ佐世保炭田實査ニ關スル件ヲ佐世保鎮守府司令長官ニ訓令セラレタリ

○佐世保附近炭田調査
（大正九年）

乃チ本調査ノ爲特ニ部外ヨリ技術者トシテ吉永三郎（奏任待遇）成瀬善右衛門（判任待遇）ヲ

囑託シ海軍探炭所職員ト共ニ調査班ヲ編成シ同年六月乃至九月ニ亘リ實地調査ニ從事セシメシガ九年十月佐世保鎮守府司令長官ハ永積囑託、萩尾海軍技師、吉末囑託ノ連名ニ成ル調査報告書ヲ海軍大臣ニ進達セリ

本調査ノ區域ハ佐世保市、東彼杵郡日守村、佐世村、北松浦郡山口村、小佐々村、佐々村、中里村、皆瀬村、大野村、柚木村、世知原村ニ跨ル一市十村ニシテ佐世保鎮守府ヲ中心トシテ北四千間 南一千間 東三千間 西八千間此面積海陸合計約五千五百萬坪ニ及ビシガ其調査報告中結論ノ要旨左ノ如シ

（註）佐世保炭田ノ問題ハ右調査報告ヲ以テ一段落トシ爾後格別ノ問題ヲ生ゼザリキ只翌十年民間ヨリ右區域ニ於ケル一部鑛業權ヲ買上ラレタキ旨ノ出願アリ又大正十三年九月代議士坂井大輔ヨリ本炭田ニ關シ非公式ニ伺出アリシガ海軍ハ特ニ相手ニナラザリシガ如シ而シテ佐世保鎮守府ハ其後モ前記鑛業權拒否ノ方針ヲ維持セリ

佐世保炭田調査報告中結論要旨

(イ) 炭層ノ狀況

（調査報告結論）

別記報告書ニ詳記セル如ク炭層ノ數ハ甚ダ多數ナレドモ概シテ薄層ニシテ良好ト稱シ難シ
唯變化少ク上下磐共堅固ニシテ採掘費低廉ナルノ利益ヲ有シ他ノ地方ニ於テ値ナキモノモ
有利ニ稼行セラレツ、アリ

(ロ) 炭量及炭質

調査區域全体ニ亘ル炭量ハ容易ニ正確ナル算定ヲナシ難キヲ以テ比較的有望ナル區域ヲ選
定シ其區域内ニ於ケル炭量ヲ計算掲記セリ

炭質ハ二三層ヲ除クノ他灰分多キ劣等炭ニシテ又東南ニ進ムニ從ヒ粘結性ヲ失フモノ、如
シ

(ハ) 將來鑛區トシテ海軍ニ保留ヲ要スベキ有望地域

佐世保附近ニ於ケル不許可地ニシテ報告書附圖第四ノ範圍トス此面積約三百七拾五萬余坪
ナリ

(ニ) 現在買収ヲ必要トスル民有鑛區

既ニ鑛區ノ設定セラレタル地域ニ於テ買収ヲ必要トスル有望區域ヲ相浦、小浦及柚ノ木ノ
三區域トス是等ノ區域ニ於ケル鑛業權者鑛區坪數ハ別表ノ如シ

(ホ) 採掘實施ノ場合適當ナル開坑地點設備ノ大体計畫及其經費概算既ニ述ブルガ如ク概シテ

薄層ナルヲ以テ一ツノ坑口ヨリ一日ニ二百噸以上ノ出炭ヲナスハ困難ナリ故ニ多量ノ出
炭ヲナサンニハ比較的小規模ノ坑所ヲ數ヶ所ニ設ケ之等ノ產炭ヲ一箇所ニ集メ處理スルヲ
以テ適當ナル方法ナリト認ム而シテ設備ニ要スル經費ハ開坑地點ニ依リ差違アルモ前記二
三百噸ノ坑所一箇所ニ對シ少クモ六七十萬圓ヲ下ラズ

(ハ) 其他佐世保附近炭田ノ價值ヲ定メ竝ニ採炭實施上必要ノ事項

保留區域ニ於ケル新田四尺層ノ露頭中工廠裏ニ表ハル、モノハ稍發達シ加フルニ運搬至便
ノ位置ニ在ルヲ以テ小規模ノ採掘ヲ開始シ併せて附近炭層ノ狀態ヲ探究スルニ極メテ時宜
ニ適スルモノト云フベシ

第三節 海軍探炭所ト博多灣鐵道

由來新原炭山ノ採掘炭ハ探炭所々屬千代村炭庫(福岡縣那阿郡千代村ニ在リタリ)ヲ經テ川船
ニ依リ博多灣ニ出スカ又ハ九州鐵道雜餉隔驛(炭坑ヨリ約二里)ニ送り同所ヨリ鐵道便ニ依ル
カノ二途ニシテ何レモ二里乃至三里半ヲ荷車ニテ運搬セザルベカラザル狀態ナリキ

博多灣鐵道
會社起ル

(明治
三年)

鐵道開通

(明治
七年)

明治三十三年博多灣鐵道株式會社起リ三十七年二月博多灣口西戸崎ヨリ須惠間約十四哩ノ鐵道ヲ開通シ新原坑ト須惠間一哩余ハ差當リ輕便鐵道トシテ運炭ヲ開始シ大ニ面目ヲ改メタリ恰モ三十七八年戰役ニ會シ海軍ハ其後更ニ會社ヲ援助督勵シテ炭坑、須惠間軌道ノ速成ヲ促シ翌三十八年六月其ノ開通ヲ見タリ

之ヨリ先明治三十六年十月海軍當局ハ時局ノ前途ニ鑑ミ採炭所長ヲシテ西戸崎終點會社用地ノ一部ニ海軍貯炭場ヲ選定スルコトニ關シ交渉セシメタルガ時將ニ軍國多事ノ折柄會社側ニ於テモ誠意ヲ以テ海軍ノ要望ニ應ジ協約ヲナセリ(此ノ貯炭場ノ面積ハ會社所有地六、九九二坪會社ガ借用中ノ官有地三、〇七八坪合計一〇、〇七〇坪ナリシガ後明治三十九年十月鈴木採炭所長ハ時局平定ノ今日既ニ其必要ヲ認メザルニ付右貯炭場使用協約ヲ解除セリ但シ年度ノ運炭契約中ニ西戸崎貯炭場ノ一部使用ノ條項ヲ置ケリ)

其後採炭所事業ノ伸張、第五坑、第六坑ノ開坑ニ伴ヒ會社ハ逐次酒殿、志免間(明治四十二年)志免旅石間(大正四年)鐵道ヲ敷設セリ

又出炭ノ増加ニ伴ヒ運輸ヲ圓滑ナラシムルタメ大正元年西戸崎鐵道棧橋ノ右方海岸ヲ離レ約一萬噸ノ貯炭場ヲ増設セシメタリ

海軍ノ援助

斯ノ如ク本鐵道ハ創設ノ初ヨリ新原炭山ト重要密接ノ關係ニ在リ之ガ爲營業ノ初期ニ於テハ建設補助ノ意ヲ含ミ高率ノ運賃ヲ支拂ヒ新原西戸崎間ニ對シ明治三十八年度迄一圓二十六錢(內須惠新原間ノ輕軌運搬ニ對シ特ニ一噸六十五錢ヲ支拂ヒシガ後之ヲ本軌道ニ改メシムルニ付三十八年二月官房機密第二三〇號決裁ニ依リ運搬年額五萬噸ニ達スル迄引續キ新原須惠間ニ對シ從前ノ通六十五錢ヲ支拂ヒ之ヲ補助セルナリ)三十九年度ヨリ九十五錢又第五坑西戸崎間ハ九十五錢トセリ

○鐵道會社
ニ海運ノ
一部ヲ命
ジ西戸崎
海岸ヲ整
備セシム

斯ノ如ク海軍ハ西戸崎マデノ陸運ヲ博多灣鐵道會社ニ命ジ西戸崎ヨリ各地ヘノ海運ハ別ニ汽船會社ニ請負ハシメ來リタル處陸海夫々輸送者ヲ異ニセル爲西戸崎棧橋附近海面ノ整備等ニ關シ陸運海運兩者ノ連絡兎角行キ届カズ船舶ノ出入荷役漸ク困難ヲ訴フルニ至レリ乃チ採炭所ハ大正八年度ヨリ從來東京灣汽船會社ノ任ジタル石炭ノ船積作業及海上運搬ノ一部佐世保行帆船積運炭ヲ博多灣鐵道會社ニ命ジ同時ニ同社ヲシテ棧橋附近水深約八尺ヲ十二尺マデ浚渫セシムルコト、セリ然モ汽船ノ荷役ニハ尙ホ不充分ニシテ一層徹底的ニ海岸整備ノ必要ヲ認メラレタリ是ニ於テ博多灣鐵道會社ハ之等ノ實情ヲ具シ海運全部ヲ會社ニ下命セラル、ヲ條件トシテ西戸崎沿岸ノ浚渫及埠頭施設ヲ完成致度旨ヲ海軍大臣ニ請願シ海軍モ亦相當理由アルモノト認メ採

○西戸崎海
岸ニ汽船
ノ接岸荷
役ヲナス

炭所長ヲシテ從來ノ海運請負業者トノ關係及博多灣鐵道會社ノ海運能力等ニ關シ考慮ノ上適宜處置セシムルコト、セリ乃チ博多灣鐵道會社ハ海軍ノ意ヲ体シ當時ノ海運請負者東京灣汽船會社ト協定シ同汽船會社ノ汽船ヲ若干買收シテ海運業ヲ開始シ大正九年度ヨリハ佐世保ノ外徳山鎮海、吳ヘノ海上運搬並ニ陸揚ノ請負ヲ命ゼラル、コト、ナリ茲ニ博多灣鐵道會社ハ海陸一貫ノ運搬ニ任ズルニ至レリ同時ハ採炭所ノ旨ヲ承ケ西戸崎海岸ヲ浚渫（十四呎）整備シ且常時之ヲ維持スベキコトヲ契約ニ規定セリ斯テ約千噸積汽船迄ハ接岸荷役ヲ爲シ得ルニ至リ大ニ運搬費ノ節約（一噸ニ付沖荷役ノ場合約一圓三〇錢 接岸荷役ノ場合 四二錢）ト運輸ノ迅速ヲ招來セリ

而シテ博多灣鐵道會社ハ更ニ進ンデ運炭能力ヲ増進シ二千噸積汽船ノ接岸ヲ可能ナラシムルタメ海面浚渫（干潮面下十八呎）及貯炭場ノ擴張、接岸設備ノ整備ヲ計畫シ（工事費豫算約八拾萬圓トセリ）新原炭ノ海上運送ヲ少クモ五ケ年間繼續下命セラル、コトヲ條件トシテ之ガ工事ヲ實行致度旨大正十年十一月海軍ニ請願セリ齋藤海軍燃料廠採炭部長ハ審査ノ結果相當理由アリト認メ特ニ左ノ覺書ヲ會社ニ交付シ運炭請負繼續ノ內約致度趣大正十一年二月海燃採機密第六號ヲ以テ上申シ同三月官房機密第四三一號ノ二ヲ以テ認許セラレタリ

覺書

- 一、運炭請負繼續期間ハ大正十一年度以降五ケ年間トス
- 二、請負ノ區間ハ從來爲シ來レル西戸崎ヲ基點トスル點、徳山、鎮海及佐世保ノ範圍内トス
- 三、正式請負契約ハ毎年度法規ニ基キ其都度之ヲ締結ス
- 四、運賃ノ協定ハ備船料ノ一般相場、航海回數、燃料炭拾貳噸數及手數料ヲ基礎トシ從來施行ノ例ニ依ル
- 五、運賃ノ協定整ハザルトキハ本內約ハ爾後其效力ヲ失フモノトス
- 六、請負人ニ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ何時タリトモ無償無條件ニテ本內約ヲ取消スコトアルベシ

（終）